

2022年7月1日

各 位

マークテック株式会社
代表取締役社長 西本 圭吾

株式会社金門光波の株式取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、本日 2022 年 7 月 1 日付で株式会社金門光波（東京都板橋区、以下金門光波という）の全株式を取得し、当社の連結子会社といたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 株式取得の目的

金門光波は、「お客様へ世界で最も高品質で最先端のレーザーを提供すること」を企業理念に、He-CdレーザーやUVファイバーレーザー等の各種レーザー機器（ガスレーザー及び固体レーザー）並びに装置の製造、販売を手掛けております。レーザー装置の設計、組立、調整及び検査など全ての工程を社内で構築し、製造工程全体をコントロールすることで、「お客様の満足にお応えし続ける高品質・最先端レーザー」の製造を可能にしております。「品質保証体系」、「多くの応用事例」及び「国内外の販売パートナー」をベースに、すべてのお客様が安心してお使いいただける製品とサービスを提供することで、更なる企業価値の向上に取り組んでおります。

当社は、「品質保証を通して社会に安全と安心を提供する」を企業理念とし、「品質保証を科学するモノづくり集団」として、日本・アジアから世界に通用するブランドをつくり、世の中を永続的に良い方向に変革して行く」を 30 年経営ビジョンとして掲げております。また、Big Company ではなく、Good Company によるエコシステム(MARKTEC Business System、以下 MBS という)「

【注 1】を構築するという戦略的なビジネスモデルに取り組んでおります。具体的には、「①次世代を担う CEO 人材育成×②品質保証に関連するキラリと光る技術力&収益力を有する、後継者不在のため事業存続が危ぶまれる中小製造企業の事業承継=Good Company によるエコシステム(MBS)」というユニークな事業構想の実現を目指しております。当社グループが少しでも多くの「技術力ある中小製造企業の技術」を承継することで、技術力があるにも拘わらず、後継者不在のため事業存続が危ぶまれる中小製造企業の雇用を確保しつつ、独自の技術、事業を継承し、後世に残すことが可能になると考えております。

【注 1】MBS のパーパスは、「品質保証と社会課題解決を前進させるクリエイティビティの源となること」である。MBS の 4 つの柱は、①Fundamental、②Lean(Kaizen)、③Growth、④Leadership である。ご参考：<https://www.marktec.co.jp/company/tabid/507/Default.aspx>

上述の品質保証に関連する技術継承の第一弾として、2018 年 8 月に、本田工業株式会社を子会社化することにより、主に建材メーカー等に対する動風圧・断熱・風洞試験装置の設計・製造等の技術承継を実現しました。また、第二弾として、2020 年 3 月に、株式会社風技術センターを子会

社化することにより、都市における風工学の諸課題の実験・評価に欠くことのできない風洞実験装置の設計・製作及び実験模型の制作等の技術承継を実現しました。これらの技術承継を通じ、主力である非破壊検査事業、印字・マーキング事業に次ぐ第三の事業の柱として、「風・環境試験事業」の構築、育成に鋭意取り組んでおります【注2】。更には、第三段として、2020年10月に、株式会社ニコスを子会社化することにより、FAシステム開発（工場ライン制御システム、各種設備監視システム、自動倉庫システム等の開発、WEB遠隔監視システム）、OAシステム開発（受注、生産管理などの業務基幹システム等の開発）、製品組み込みソフト開発（マイコン組み込み製品のソフト開発、I/Oドライバ、BIOS等のチップ制御ソフト開発）や制御盤設計製作（制御盤・操作盤の設計・製作、シーケンスソフト設計・調整）等の技術承継を実現しました。

【注2】主に技術承継を加速化する目的で、本田工業株式会社と株式会社風技術センターは、2021年11月1日をもって合併し、株式会社風技術センターが存続会社となっている。

今般、金門光波の子会社化により、これまで金門光波が培った技術力と人材を当社グループ内に取り込むだけでなく、当社及び当社グループとの様々なシナジー追求によって、「世界で唯一となる325nmの波長を出せるHe-Cdレーザー装置を作り出す技術」、国内研究機関及び大手検査機メーカーとの繋がりや、国内顧客に対するメンテナンスのレスポンスの早さ、あるいは、GaN（ガリウムナイトライド）を使ったパワー半導体の需要増大に伴うウェハ表面検査（青色LEDの表面検査）など、金門光波製レーザー波長を必要とする検査機需要の増大等々を通じて、市場競争力を短期間で獲得できるものと考えております。また、金門光波は、2016年にNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクトを千葉工大、レーザー総研と共同で開始し、既に市場優位性のあるUVファイバーレーザー（波長：318nm、100mW）を開発済みであることから、今後用途開発の強化を行うことで、顧客ニーズ及び市場拡大の可能性を有しているため、当社グループとしても、持続的な成長、企業価値の更なる向上に資すると判断し、金門光波の株式を取得するに至りました。

当社は、本年創立67周年を迎えましたが、主にM&Aを中心とした、資本提携、業務提携、技術提携等による「品質保証に関連する技術力ある中小製造企業の受け皿＝Big Companyではなく、Good Companyによるエコシステム（MBS）」を構築するという戦略的なビジネスモデルを積極的に展開し、SDG's 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、SDG's 11「住み続けられるまちづくりを」及びSDG's 12「つくる責任 つかう責任：持続可能な消費と生産パターンを確保する」【注3】という社会課題を解決する一助となることで、100年さらにそれ以上続く「品質保証を科学するモノづくり集団」として社会に安全と安心を提供する企業であり続けてまいりたいと存じます。

【注3】成長にあった持続的消費を続けるためにReduce（削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再生）するサーキュレーションエコノミー（循環型経済）を重視する。

2. 株式取得をする会社の概要（2022年3月31日現在）

(1) 商 号	株式会社金門光波
(2) 所 在 地	(本社) 東京都板橋区板橋一丁目53番2号 TM21ビル8階 (工場) 福島県須賀川市北横田字杉之内21
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 濱田 武
(4) 事 業 内 容	He-Cdレーザー装置の開発・製造・販売 UVファイバーレーザーの開発
(5) 資 本 金	10,000千円
(6) 設 立 年 月 日	2005年(平成17年)10月3日
(7) U R L	https://www.kimmon.com/
(8) 主 な 取 引 先	海外及び国内メーカー(主な用途は、フォトルミネッセンス装置、レーザーラマン顕微鏡、ラマン分光装置、DFBレーザー用回折格子製造、ウェハ表面検査、ガラス傷検査、ガラス材劣化検査、3Dプリンターなど)、研究機関、大学等

3. 新代表者及び変更日

(1) 新代表者の役職・氏名	代表取締役会長 西本 圭吾 代表取締役社長 藤本 貴司
(2) 変 更 日	2022年(令和4年)7月1日

以 上